



2026.02

漢方医学センター
平澤 一浩

耳鳴りは「キーン」や 「ジー」ばかりではありません

一般的に耳鳴りというと、「キーン」や「ジー」などの持続する音を思い浮かべる方が多いと思います。これはいわゆる「内耳性耳鳴」で、聞こえのセンサーである蝸牛が、加齢・騒音・内耳の病気などによって障害されることで生じると考えられています（原因については諸説あります）。内耳性耳鳴の治療は難しいこともありますが、補聴器をはじめ、内耳の血流を改善する薬、不安を和らげる薬、音響療法など、さまざまな西洋医学的治療が行われています。

*内耳性耳鳴については、過去に当コラムで紹介しております。

→[漢方コラム「耳鳴りについて」\(2025年8月\)](#).....



一方で、このような内耳性耳鳴とは異なるタイプの耳鳴りも存在します。その代表が、「筋性耳鳴」と「血管性耳鳴」です。

■ 筋性耳鳴

耳の中やその周囲の筋肉がけいれんすることで起こる耳鳴りです。「カチカチ」「コトコト」「ボボボボ」などと表現されることが多く、鼓膜が震えているように感じる方もいます。西洋医学では有効な治療選択肢が限られており、経過観察となる場合も少なくありません。

■ 血管性耳鳴

「ドドドド」というように、脈拍に合わせた音が聞こえる耳鳴りです。脳動脈瘤、頸動脈狭窄、血管性腫瘍などが隠れている場合もあるため、まずは耳鼻咽喉科の受診をおすすめします。しかし、詳しく検査を行っても明らかな原因が見つからないことも多く、その場合は「特発性」として扱われ、西洋医学的な治療は難しくなります。

このように、筋性耳鳴や特発性血管性耳鳴は、西洋医学での治療が難しいことがあります。漢方薬が有効な場合があります。例えば筋性耳鳴は筋肉のけいれんが原因であるため、こむら返りで知られる芍薬甘草湯や、抗けいれん作用をもつ釣藤鈎を含む抑肝散などが効果を示すことがあります。また、血管性耳鳴では、頭部に血液が過剰に集まりのぼせてしまう「気逆」と呼ばれる状態が関係していることがあります。頭部の血流が増えると、相対的に血管の径が狭くなり、血流の音が雑音として聞こえてくると考えられます。「気逆」を改善する漢方薬として、女神散、黄連解毒湯、桂枝茯苓丸、柴胡加竜骨牡蠣湯などが効くことがあります。さらに、加齢に伴う動脈硬化によって血管が狭くなり、血管性耳鳴が生じる場合もあります。この場合は、「アンチエイジングの漢方」といわれる八味地黄丸が効果を示すことがあります（八味地黄丸には血管拡張作用や内頸動脈の血流改善効果が報告されています）。普段よく知られている耳鳴りとは少し異なるタイプで、西洋治療は治療が難しいと言われた方は、ぜひ一度、漢方による治療も検討してみてください